



★「学校と地域の連携・協働」を目指して!★

10月31日(木)に「令和元年度塩谷南那須地区社会教育主事有資格者ステップアップ研修・地区別地域連携教員研修」を塩谷庁舎にて開催しました。

今年度は「これからの学校と地域の連携・協働」をテーマに、宇都宮大学地域デザイン科学部 准教授 若園雄志郎先生をコーディネーターにお迎えし、インタビューフォーラムを実施しました。



若園雄志郎先生

前半は、小・中・高校から、3名の先生に「各学校における協働活動の取組について」実践事例を御発表いただきました。

各学校の取組!



塩谷町立大宮小学校 教諭 手塚 孝一 先生

『地域とともにある教育課程の実現に向けて～大宮コミュニティとの協働～』

昨年度より大宮地区コミュニティ推進協議会委員と大宮小学校教職員と合同でワークショップを取り入れた研修会を開催している。話し合いの中で出たアイデア(「お年寄りと子どものふれあいの場を!」等)を教育課程に位置づけて実施している。

那須塩原市立日新中学校 教頭 大江 満仁 先生

『日新中学校の地域連携について』

中学校の行事としてスタートした「Walk Walk 強歩 in 日新」。その後、学区内の公民館や小学校、一般の方も参加。昨年度より実行委員会を立ち上げ実施している。学区内の児童、生徒、教師、保護者、地域住民、市議会議員の代表が一堂に会し、課題解決を目指す「日新サミット」を平成27年度より実施している。



栃木県立矢板高等学校 教諭 篠崎 昌彦 先生

『矢板高校(総合選択制専門高校)の特性を活かした、

地域連携による矢板地区活性化プロジェクト』

やいた軽トラ市への参加、やいた黒カレーや黒カレーパンの開発、小・中・特別支援学校との交流・協働、市議会や市長との意見交換、介護用スプーンや段差検知白杖の開発等、総合選択制専門高校の特性を活かし、矢板市だけでなく、管内の様々な団体と連携し、地域活性化プロジェクトを実践している。



後半は、参加者からの質問に答えていただく時間をもちました。参加者からは、①時間の確保について ②休日対応について ③取組のきっかけについて等の質問が多く寄せられました。

3名の先生方からの回答は裏面に掲載いたします。



①時間の確保

- ・教育課程に位置づけること
- ・スクラップ&ビルド
(一定の効果が得られた事業はやめる)

②休日対応

- ・参加は希望制(保護者の協力)
- ・徐々に地域にまかせていけるようなプランを立てている。

③きっかけ

- ・市町(行政)との連携
- ・まわりを巻き込む
- ・つながりが、さらにつながりをつくる

また、今後の展望として、

- ・無理のない範囲で(判断基準は生徒・児童のためになるかどうか)
- ・地域とのWinWinなつながりづくり
- ・会って話せる関係づくり(同じ意識をもってもらうために)

という御意見をいただきました。

最後に、若園先生から、「つながり(接着剤)をどうつくるか、学校が仕掛け人となること!温度差(教員間、地域等)を埋めるためにも議論を!そして、地域にお願いできる人をもって!」とエールをいただきました。



長期間の研修
大変お疲れ様でした。



今年度、塩谷南那須地区では、七名の先生方が社会教育主事有資格者の仲間に加わりましたので、紹介します!

令和元年度
社会教育主事講習修了生

文化芸術による子供育成総合事業(巡回公演事業)



文化庁主催の巡回公演事業、本年度も本地区の小中学校5校で公演が開催されました。

毎年、実施を希望する学校の中から、採択された学校のみ実施可能ではありますが、公演費は文化庁が負担し、一流の文化芸術団体による芸術公演の鑑賞や共演ができる事業です。

次年度の募集要項が近日中に届く予定です。各学校へは市町教育委員会をとおしてのお知らせとなります。要項を御一読いただき、御希望がある場合にはぜひ、申請書の提出をお願いします!

【実施校の先生の声】

- ・本物の文化芸術に直接触れる機会を設けられたこと、「落語」を体験できたことは、子どもたちにとって「ことば」による想像力、表現力の向上に効果的であった。
- ・「京劇」は、本場中国でも専門の学校でしか習うことができず、児童にとって貴重な体験となった。芸術の楽しさを体感でき、出演した児童の積極性を著しく成長させた。